



吉高人権だより

2020年12月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

忘れられない大切な言葉

保健体育科 前田裕子

先月各学年から出された人権標語・メッセージは36作品。読んでいて気づいたことは、1、2年生は「言葉」に対するものが多く、3年生はさらに世界が広がり、「認め合う」「笑顔」「受容」「感謝」といったものが多くあったことです。学年を追うごとに人権に関してより広い視野でとらえられていると感じました。標語を考えることは、自分の経験を通して自分たちの生き方の振り返りができる良い機会になると同時に、状況を想像してこうあるべきと気づくことにもつながります。

さて、忘れられない大切な生徒からの言葉を、私の心の引き出しから少し紹介したいと思います。30数年前、本校で私が妊娠していることを部活のキャプテンだけに伝えていたのですが、大きな声を出して動きまわる私を見て心配でたまらなくなってきたのか、「先生はじっとしておいてください。私たちが動きます。指示だけお願いします。」と、てきぱきとサポートしてくれました。身重の体を思いやってくれる心優しい生徒たちに感謝しました。A高校では2名の男子生徒が、「先生は一生懸命しよる。きっと良いことがあるけんな。」(彼らは何も知らなかったのだけれど、妊娠が継続できなかつた辛い時期。彼らの言葉に救われました。)小規模校のB高校では、1年生の部員3名しかおらず大会出場は無理のようだとした私に、新3年生になる30名のクラスから9名が「先生、私でも力になれますか？」と入部してくれました。1年生の部員や私の心を押し量って、「私でも…」と力を貸してくれたことに今でも胸が熱くなります。

子どもであろうと大人であろうと困難な状況や壁に押しつぶされそうになることはあります。そういう時の周りからの言葉や笑顔はテコとなり、重い気持ちを引き上げてくれます。また、自分が迷いや不安で身動きが取れない時に、他者から乗り越える力を受けた経験を持つ人は、同じようにそのサポートができる人になれると思います。その時の言葉や情景が「うれしい」という情動とともに、「ありがたい」という感謝の気持ちとして一生記憶に残るからです。

あなたの一言から世界が明るく変わる人がいるかもしれません。



人権・同和教育ホームルーム活動

12月4日（金）に1・2年生が、第3回人権・同和教育ホームルーム活動を行いました。1年生は「人権問題を考えるⅢ」、2年生は「人権の歴史Ⅲ」というテーマで学習しました。



〈人権委員の感想から〉

○ 差別され学校へ行けなくなった子どもたちのために自宅を開放して分教場をつくった岩崎伊三郎さんや、大審院の裁判長で差別されていた人たちの味方をした

た児島惟謙について学びました。僕は岩崎伊三郎さんの生き方はカッコいいと思いました。そして、この人のように人の役に立てるようなことを将来しようと思いました。（2年生）



○ ジェンダーバイアスについて今まで考えたことはほとんどありませんでしたが、改めて考えると身近なところにもジェンダーバイアスがあるのだと思いました。日本は特にそういう風習や習慣が根強く残っているので、このことについては後進国だと思いました。（1年生）

人権集会

12月11日（金）人権集会が行われました。今回は、1年生の人権委員が「新型コロナウイルスに負けない絆」というテーマで発表しました。先日の人権・同和教育ホームルーム活動での意見をもとに人権委員も話し合いをし、「自分だったらどうかということを考えて行動することが大切」、「差別をしない、させない、見逃さない姿勢を持つ」と伝えました。感染対策を徹底して行い、負のスパイラルを断ち切りましょう。



「ぬくもり^{うた}詩」募集のお知らせ 🎄🌟🎄🌟🎄🌟🎄🌟🎄🌟🎄🌟

「ぬくもり詩」は子どもから親・兄弟・祖父母・友だちなどへ、思いをキャッチボールのように投げかけ返してもらうことで共に作品を作るというもので、五七五七七の短歌形式です。冬休みに家族や友人と作ってみてください。詳しくは先生から配布される応募用紙を見てください。応募された作品の一部は、来年2月16日（火）開催の「吉田町人権をまもる集い」で展示されます。

〈昨年度の作品から〉

・お母さん 送り迎えを ありがとう 月日は早いね もう卒業か

